

武田氏の著書はなぜウソがまかり通るのか

週刊文春(2009.2.12号)に「エコ批判」武田教授に公開質問状」が掲載された。『環境問題はなぜウソがまかり通るのか』の著者である武田邦彦氏の独自のエコロジー論への疑問が3頁にわたり指摘されている。武田氏へも直接質問したそうだが納得のいく答えはなかったとのこと。「元祖懐疑論者」として次々に新刊を出し、テレビや雑誌に引っ張りだこの氏によろやく疑惑の目が向けられたことに安堵したが、氏の著書の影響によるものと思われる環境対策批判がまだまだ多いのが現実だ。

(1)古紙再生促進センターも首をかしげる「古紙価格平均値」

他人の著書を批判するのは決して楽しい作業ではない。しかし、あまりにも低次元のリサイクル批判本に「古紙問題市民行動ネットワークデータ」なるものが掲載され、それが古紙ネットのデータでない場合は、きちんと世間に「それは古紙ネットのデータではない」といっておかねばならないだろう。今回の一連の申入書に、武田氏からも出版社からも納得のいく回答は得られなかったものの、必要な措置であり意義あるものだったと思う。

武田氏のリサイクル批判には、不確実な知識と偏見で導き出した氏の推論を補強するためいくつかのデータが使われている。古紙ネットのホームページに掲載されていたデータもそのために利用されたわけだが、紙を知らない人が紙のデータを正しく扱うのは難しい。古紙ネットが古紙再生促進センターの資料をもとに作成した「過去24年間の古紙価格の推移」のグラフと表は、「古紙価格平均値」という耳慣れない言葉に書き換えられ、新聞・雑誌・段ボールの高値と低値をいっしょくたに足して割られ一本線のグラフに仕立て直されている。

もしこのグラフを古紙に詳しい人が見たらきっとこう思うだろう。「古紙ネットのいう古紙価格とはどの古紙のことだろう。何の断り書きもつけてないところを見ると何種類もの古紙があるのを知らないのかな。もし裾物三品のことだとしたら、こんなに発生量の違うものを量も無視してよくもまあ平均など出せたものだ。それにしてもこのグラフはおかしいぞ。慶応大学も同じ数字を使っているはずなのにこの線のズレは何だ？そうか、古紙ネットの方はその年の高値と低値だけで年平均を出しているようだ。こんな出し方をしたら実態とあわない年がいくらでもでてくるだろうに、古紙ネットって古紙のことをまったく知らない団体なんだなあ」と。

武田氏はなんということをしてくれたのだろうか！と悔しく思うのはこちらだけで、古紙知識のない氏も出版社も何の痛痒も感じてない様子。仕方がないので確認がてら、古紙再生促進センターに電話をし、これまでの経緯を簡単に説明して「古紙価格平均値」についてどう思うか聞いてみた。

Q:古紙ネット & A:古紙再生促進センター

Q : 一般に古紙価格平均値というものはあるのですか？

A : 古紙価格平均値は古紙関係者は普通だしません。うちでも出したことはない。

Q : センターが出している品目別・月ごとの古紙価格はどのように出しているのですか？

A : 聞き取り調査によるもので、その月の平均ではなく標準的な価格という意味。あくまでも目安です。

Q : 新聞なら新聞だけの品目別の価格しか出しませんか？何種類かの古紙を平均化して価格を出すことはありますか？

A : それぞれ量も違うからそういうことはしません

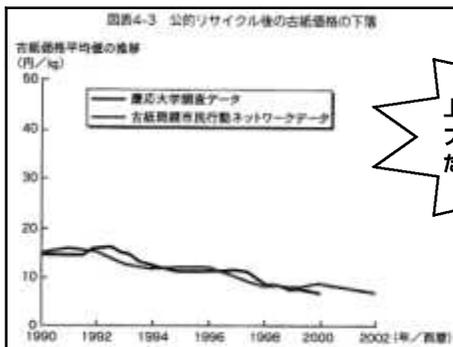
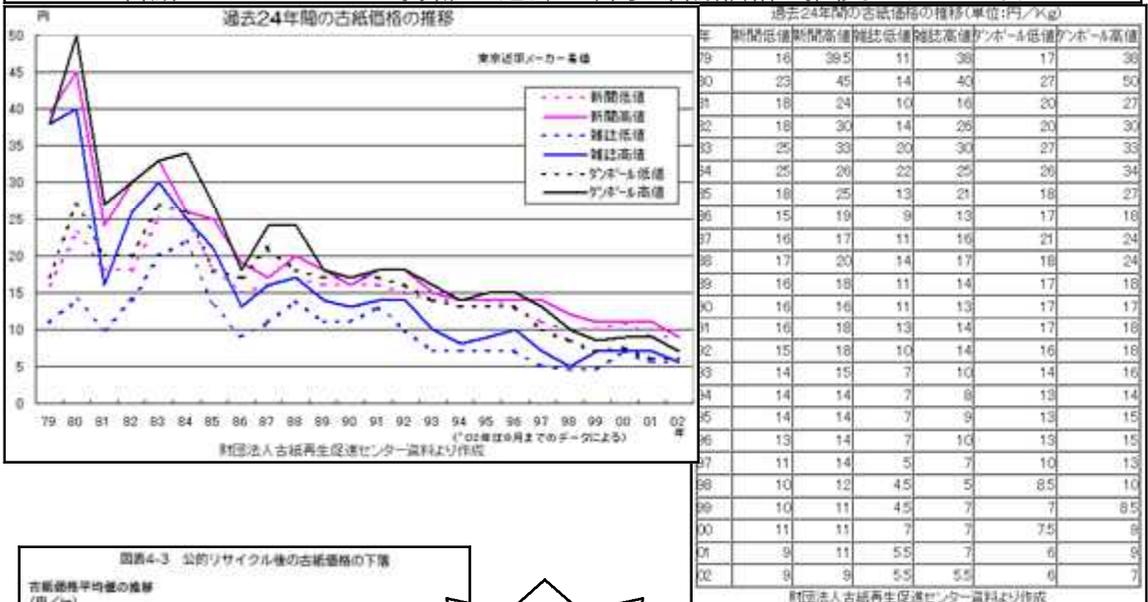
(2) 武田氏のグラフには4つのミス

著書の中で氏がおかしているいくつかの間違ひは、ペットボトルもレジ袋も紙も燃やす方がいい、ダイオキシンや環境ホルモンの危険性も「ウソ」などという結論で明白だが、古紙ネットのデータだとしたたった1つのグラフの中にも4つのミスをおかしている。

1. 一年間の最高気温と最低気温を足して2で割りその年の平均気温としないように、高値と低値だけを足して割ったものをその年の平均価格とするのはおかしい。
2. それぞれ発生量の違うものの量を無視して「平均値」を出すことは通常ありえない。
3. リンゴとミカンとスイカの値段を足して3で割ったものを「果物価格平均値」といわないように、新聞、雑誌、段ボールの価格だけをたしあわせ、その旨を明示することもなく「古紙価格平均値」とはいわない。
4. 上記3点の操作を武田氏自らがしておきながら、「古紙問題市民行動ネットワークデータ」としたことは、責任転嫁であり、明らかにデータ改ざんである。

それにしても「古紙価格平均値」などという普通古紙関係者が出さないデータをあたかも古紙ネットが出したかのように装い、指摘されても謝りもせず、本の改訂はおろか自分のホームページにもいまだにこのグラフを得意げに載せているような人に、環境活動をウソだの偽善だのといつてほしくない。(栗岡)

古紙ネットホームページ掲載の「過去24年間の古紙価格の推移」のグラフと表



上記の表とグラフから改ざんされたグラフ

グラフは武田氏作成の「古紙価格平均値の推移」
「古紙問題市民行動ネットワークデータ」と記載
「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」179頁より

参考

下記の表は、(財)古紙再生促進センターがホームページ上で公開している「関東地区 主要古紙価格推移表」の2008年1月から直近までのデータを抜粋したものである。新聞、雑誌、段ボールの各高値・低値のデータから「古紙価格平均値」等という奇妙なグラフを作成することの不適切が一目瞭然であろう。武田氏がなにをどのように平均化しようと自由ではあるが、しかし、それを「古紙問題市民行動ネットワークデータ」とされたので、これまで再三にわたって謝罪と訂正を求めてきたのである。製紙メーカーの話では古紙には20種類以上の種類があるそうだ。

関東地区 主要古紙価格推移表

(単位:注2, 参照)

年月	上白	中白	模造	色上	新聞	雑誌	段ボール
2008年1月	44,000~50,000	26,000~39,000	25,000~26,000	22,000	15,000~16,000	13,000	15,000~17,000
2月	44,000~50,000	26,000~39,000	25,000~28,000	22,000~24,000	15,000~16,000	13,000	15,000~17,000
3月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	18,000~	15,000~	18,000~
4月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	18,000~	15,000~	18,000~
5月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	18,000~	15,000~	18,000~
6月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	18,000~20,000	15,000~	18,000~
7月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	18,000~20,000	15,000~	18,000~
8月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	18,000~20,000	15,000~	18,000~
9月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	20,000	16,000~17,000	18,000~
10月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	20,000	16,000~17,000	18,000~
11月	44,000~50,000	26,000~39,000	27,000~28,000	24,000	20,000	16,000~17,000	18,000~
12月	42,000~48,000	26,000~39,000	25,000~26,000	22,000	20,000	16,000~17,000	18,000~
2009年1月	40,000~46,000	24,000~33,000	23,000~24,000	19,000~20,000	20,000	16,000~17,000	18,000~

注1. 古紙価格は、東京都内及びその近郊の古紙問屋店頭渡し価格を表示したものの。

店頭渡し価格では、古紙問屋から製紙メーカーまでの輸送運賃は含まれない。

但し、中白、模造、色上は、静岡地区製紙メーカー工場着価格。

注2. 上表の価格は、2007年3月までは円/kg、2007年4月以降は円/㎡いずれもプレス品。

プレス品とは、大型梱包機によりプレス梱包をしたもの。

注3. 財団法人古紙再生促進センター調査。